navigation

杵築市障がい者（児）相談会

問福祉推進課 障害福祉係　☎0977-75-1111(内線 164,167)

杵築市障がい者相談員および相談支援事業所相談員が、日常生活のお悩みや困っていること、障がい者サービスの利用などの相談に応じます。

身体・知的・精神に障がいのある方、そのご家族等、どなたでもお気軽にお越しください。事前の申し込みは必要ありません。

【日時】 9月10日（水）10時～11時30分
【場所】
文化体育館　選手控室（1）
山香庁舎　3階320会議室
【費用】 無料
【相談担当者】
杵築市障がい者相談員、相談支援事業所相談員

navigation

文化財市民調査員募集

問生涯学習課 文化財係　☎0977-75-2414

【任期】 10月1日～平成29年3月31日（2年6か月）
【調査区域】
全14地区‥‥杵築地域（6地区）、山香地域（6地区）、大田地域（2地区）
※地区公民館単位、大田は旧小学校区
お住まいの地区周辺を担当していただきます。
【調査対象】 身の周りにある「地域の宝」とされるもの
【調査方法】
最初に講習会で文化財調査の基本を学びます。その後は年に数回程度、地区の交流会・講習会を開く予定です。
各調査区ごとに担当の文化財調査員を配置しますので、質問などは担当までお問い合わせください。
調査成果は、杵築市の文化財マスタープランの資料となる予定です。
【募集人数】 50名程度（各区域3～4名程度）
【応募方法】
生涯学習課 文化財係までお電話かE-メールでご応募ください。
電話番号：0977-75-2414（内線 256、257）
E-メール：bunka@city.kitsuki.lg.jp
【その他】 交通費として年間10,000円が支給されます。

市長室から Vol.6

杵築市長　永松 悟

敬老の日

今月15日は敬老の日。多年にわたり地域のために尽くされてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う日です。

市内には百歳以上のご長寿は19名いらっしゃいます。最高齢は明治35年（1902年）2月生まれの豊田ミツヱさん（山香苑）で112歳。県内最高齢者であり12日には広瀬知事にもお祝いに駆けつけていただける予定です。「ご長寿県内一」が杵築市におられることは、市民にとって誇りであり大きな喜びです。

平均寿命と健康寿命

7月に厚生労働省が発表した、昨年の日本人男性の平均寿命は80・21歳、女性は86・61歳です。男女とも過去最高を更新しました。

一方、先月公表された今年の厚生労働白書によると、「平均寿命」と「健康寿命」（健康上の問題で日常生活が制限されずに生活できる期間）との差は、男性が約9年、女性は約13年もあります。

徳島県上勝町

では、健康寿命を延ばすにはどうすればいいのでしょうか。

徳島県の上勝町は高齢女性の医療費が年間を通じて低い、つまり健康な人が多い町ですが、これは全国的に有名になった「葉っぱ（つまもの）ビジネス」の成功によるものです。キーワードは「仕事」。仕事が生きがいになって、頭も体も若返ってきていると言います。

健診受診率の向上や介護予防は基本ですが、市としてもまず高齢者の方々がそれぞれの地域で役割や仕事がある、自分が必要とされる「居場所」がある、そういった環境づくりにも取り組んでまいりたいと思います。

地域で予防すべき感染症 17

ジフテリア

杵築が元気な子どもの育つ街となるために、感染症の蔓延をどのように予防すべきかシリーズで学びます。
第17回目は友岡医院の友岡操先生に、ジフテリアについての話を聞きました。

ジフテリアとはどういう病気ですか？

ジフテリア菌に感染し、この菌が産生する毒素によって発症する病気です。
口やのどの粘膜表面やその近くで増殖し、炎症を起こします。

どのように感染するのですか？

感染した人が咳やくしゃみをした際に空気中に飛沫が飛び散り、それを吸い込むことで人から人へと感染します。

病状はどのようなものですか？

2～7日の潜伏期の後、発熱やのどの痛みが始まり、犬が吠えるような咳や嘔吐などの症状があります。首のリンパ節が腫れたりする小児もいます。
のどには白～灰白色の偽膜と呼ばれる膜ができ、気道が狭くなって呼吸困難になることや窒息することもあります。
また、大量のジフテリア毒素により心臓・神経・腎臓にも症状が及ぶことがあります。

治療法はありますか？

血清療法と抗生物質の投与を行います。
治療開始の遅れはその後の病状や回復に著しい影響を与えるので、状況としてジフテリアが疑わしければ、確定診断を待たずに治療を進める必要があります。
細菌が死んだことを確認できるまでは、状況に応じて患者を隔離入院させなければなりません。

まわりに感染したという話を聞いたことがないのですが？

かつては年間8万人以上が発症し、うち10％が死亡した恐ろしい病気でした。
しかし予防接種の普及により、1999年の死亡1例の届け出以後発症の報告はありません。

では、あまり心配しなくてもよいのでは？

そんな事はありません。日本国内での発症はなくても、ワクチン摂取率の低い外国では流行が見られます。
幼少時に予防接種を受けていないまま外国渡航した場合、現地で感染する可能性があります。
また、感染しても症状がでない場合もあり、そういった人が予防接種の済んでいない小児と接触することで、知らず知らずのうちに感染を拡大させてしまうこともあります。

予防法はありますか？

予防接種が最も有効です。
以前は百日せき・ジフテリア・破傷風の三種混合ワクチンでしたが、現在ではこれにポリオを加えた四種混合ワクチンを接種します。
必ず規定の回数を接種することが大切です。

第一期
生後3か月～生後7歳6か月までに3回
第一期追加
初回3回接種終了後、6か月あけて1回
第二期
11歳以上13歳未満で1回